

第五十一回理事会開催

三月十三日、十四日の両日、「日蓮宗霊断師会・第五十一回理事会」が、二日間の日程で愛知県名古屋市「名古屋クラウンホテル」を会場に開催された。

最初に日程説明の後、正副議長が登壇。理事出席点呼の後、理事会は成立した。

続いて新聞会長の御発声により玄題三唱。新聞会長は、東日本大震災第三回忌にあたり、殉難横死の諸霊位に対する追善供養、並びに物故霊断師各聖、殊には去る二月十五日にご遷化された高佐日明上人に対する増円妙道をご回向し、「平成二十五年度は、いよいよ人材育成の実質活動を行い、会員一人一人を立派な、尊敬できる僧侶に育てていきたい。そして会勢を発展させ、大衆救済・化他行に励んでほしい。」との抱負を述べられた。

平成二十五年度 全国支部長会議開催

第五十一回「理事会」に引き続き、四月十四日、十五日の両日、日蓮宗霊断師会「平成二十五年度 全国支部長会議」が、同じく愛知県名古屋市「名古屋クラウンホテル」を会場に開催された。

会議は、天野組織局長の「我が霊断師会が学問の上からも信仰の上からも、さらに法の上からも正当であることは明らかである。揺らぐことなく祖道を邁進すべく、ここに支部長会議を開催する。」との力強い開会宣言により開会。

総局並びに総合研究所事業報告の後、第五十一回「理事会」決議事項についての説明が近藤理事会副議長よりあり、「新生日蓮宗霊断師会の要



となる会則並に規程の大幅な改正案について満場一致の下、承認頂いた。」との報告を受け、会則並に規程改正の説明が詳細に亘り行なわれた。今改正は、従来の地方支部を管区霊断師会とし、各管区霊断師会が志と責任をもってそれぞれの会の運営に当たり、本部は管区霊断師会の活動をサポートするという、これまでの会の在り方が根本から変わる組織機構の大改編である。

今「支部長会議」は、第五十一回「理事会」に於いて決議された会則改正による大幅な組織変更を伝える非常に意義深い会議であり、支部長各聖からは、今後の霊断師会の在り方、支部としての活動について、建設的な沢山の質問・提案が出された。参加者一同は、今後更なる霊断布教に励むべく、来年度の新会則施行に向け、本部・支部一丸となって協同していくことを誓い、散会した。

宮崎県・龍雲寺聖徒団に於いて「第四回清道衆講習会」を開催!

二月二十三日(土)、宮崎県龍雲寺聖徒団に於いて第四回「清道衆講習会」が開催され、広島県より濱田壽教講師(本部伝道局長)が出向した。

濱田講師は、お題目の有り難さ、幸福への道である「九識靈断法」・「俱生神月守」の神秘不思議について、熱心に体験談を交えながら優しく、分かりやすく講義をされた。

参加した三十名の聖徒は、久しぶりに体験する講義に泣いたり笑ったりしながらも、一期一会の気持ちで熱心に研鑽に励んだ。

また当日は、奇しくも濱田講師の御尊父の第十七回忌の祥月命日にあたり、「聞法の行とは信仰を増進させるためだけでなく、ご先祖様への供養にも繋がっていく」との濱田講師の言葉に、聖徒一同は共感・共鳴、お題目の道を歩んでいく気持ちを新たにしていた。



濱田壽教講師 (本部伝道局長)



講習会の模様

聖徒の声 清道衆講習会を受講して

龍雲寺聖徒団 児玉ウメ子

第四回「清道衆講習会」に参加させて頂き、本当に良かったです。濱田壽教先生のお話がとても楽しく、あつという間に終ってしまいました。

お話を聞くたびに、日蓮大聖人様の偉大さや南無妙法蓮華經の有難さがよく分かりました。自分の心を磨く良い研修でした。龍雲寺様に御縁を頂いたこと、心より感謝しております。

私もお題目を一生懸命練習して、今では毎日父母に感謝し、仏様に向かい、父もしていたようにお題目があげられるようになりました。病気をしてお題目の有難さが身に染みてよく分かります。

皆様が幸せになれるように、お題目の有難さやお守の大切さを弘めていきたいと思えます。濱田壽教お上人様には、お忙しい中、遠い広島より来ていただき、とても大切な心の修行をさせて下さったこと、本当にありがとうございます。

お忙しい中、私たちの為においで下さいました濱田先生に感謝し、自分が変われば周りが変わる(大聖人様の教え)を忘れず、一日一日を大切にして生きて参ります。次回も是非参加したいです。濱田先生、本当にありがとうございました。

龍雲寺聖徒団 水本 深雪

母の残してくれた仏縁「お題目」のおかげで、三度目の「清道衆講習会」に参加させていただきました。幸福とは三大秘法を行い、ご本尊様を敬い、月守を着帯し、仏様と共に生きていくことであると学びました。天涯孤獨の我が身でしたが、旅立った母や従妹たちに供養を捧げながら、生きていくことが大切なのだという先生の教えが身に染みしました。

お忙しい中、私たちの為においで下さいました濱田先生に感謝し、自分が変われば周りが変わる(大聖人様の教え)を忘れず、一日一日を大切に生きて参ります。次回も是非参加したいです。濱田先生、本当にありがとうございました。

龍雲寺聖徒団 大橋 治子

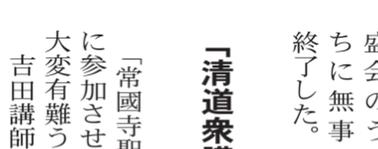
昨年二月二十二日、「清道衆講習会」を初めて受講し、信仰の大切さを優しく、解りやすく学び、感動し、さっそく隣の節子さんを誘い、翌日の二十三日から早朝六時二十分のお寺参りが始まり、毎日欠かさず日参を続けてきました。そして丸一年が経った今年二月二十三日、二回目の講義を受け、「四徳波羅蜜多」「三大秘法」「俱生神月守」を学び、親しみやすく、笑いを交えながらお話を進められる濱田講師の言葉に引きこまれ、さらに感動の「あつ!」という間の三時間でした。

これからも初心を忘れず信仰し、お題目を唱え、俱生神月守を着帯し、節子さんと早朝のお寺参りを続けたいと思えます。

広島県福山市・常國寺聖徒団に於いて「第一回清道衆講習会」を開催!

二月二十六日、広島県福山市・常國寺聖徒団に於いて、「第一回清道衆講習会」が開催され、本部より吉田憲由講師(本部聖徒部長)が出向、六十七名が参加・研鑽した。

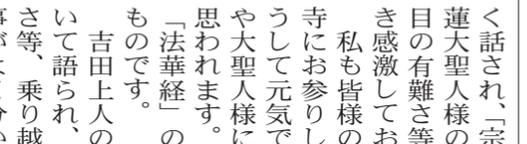
午前九時より本堂に於いて濱田壽教団長導師の下、法味を言上し、清道衆講習会初開催の意義が述べられた。



吉田憲由講師 (本部聖徒部長)

涙、感動の連続であった。特に俱生神月守着帯とお題目信仰の体験談では、「本日の幸福」について熱く語られ、受講者は一同に、自分自身の心の在りかたや、日々のお題目信仰の大切さを実感し、盛会のうち無事に終了した。

講習会の模様



講習会の模様

「清道衆講習会」感想文

常國寺聖徒団 横山金太郎
「常國寺聖徒団・第一回清道衆講習会」に参加させていただき、有意義な講習大変有難うございました。

く話され、「宗教と仏教」から始まり、日蓮大聖人様の「南無妙法蓮華経」のお題目の有難さ等々、きめ細かく解説いただき感激しております。

第二十三回 日蓮大聖人の歩まれた道 諸国遊学への道



総合研究所 教学研究部長 小泉 輝泰

「法然善導等がかききて候ほどの法門は日蓮は十七八の時よりしりて候ひき」 (南条兵衛七郎殿御書)

前号では修学時代の日蓮大聖人の意外な一面をご紹介しましたが、もちろん念仏に留まらずあらゆる学問を修得していった蓮長にとっては、もはや安房随一の学問所と言われた清澄山でさえ、満たされぬ場所となっていたのです。

「法然」や「善導」と言えば、浄土宗では日本や中国において開祖とも言える名だたる僧侶です。その二人が世に示す法門をして「それしきのことならば、十七、八(満では十六、七)の頃より既に知っていた」と言うのですから、知らぬ人が

聞けば「それはいくらなんでも言い過ぎだろう」と思われるかも知れませんが、しかし、それを裏付けるような資料も、ちゃんと残されているのです。

それが以前にも少し触れました『授決 円多羅義集唐決』(以下、『円多羅義集』)の書写です。大聖人のお書きになられた書は、仁治三(一二四二)年、御年二十一歳の『戒体即身成佛義』がもっとも古い物であると長らく考えられて来ましたが、昭和の初めに金沢文庫で見された『円多羅義集』には「嘉禎四年(太歳戊戌)十一月十四日 阿房(安房)の国東北の御庄 清澄山 道善房の東面にて執筆す 是聖房 生年十七歳」との奥書がありますので、ご出家の翌年にはこの書を書写されていたこととなります。

『円多羅義集』は比叡山第五代座主ともなった円珍の書で、密教の奥義書とも言える大変難解なものです。それをわずか十七歳にて書写されたのですから、南条書のお言葉も頷けるといえるものです。

またこの書写は、日蓮さまが密教に対して大変深い関心を寄せられていたことがうかがい知れます。後に同じく書写されたと言われる『五輪九字明秘密釈』や



いづれにせよ、辺国の地にて既に学ぶもの乏しき環境の中、蓮長はいよいよ諸国遊学への決意を固めていったのです。

法華経のお話 22



総合研究所主任 塩入 幹丈

無量義経の段その二十一 大轉輪王小轉輪王。金輪銀輪諸轉輪王。(無量義経徳行品第一)



①人の話を聞くことにより、人生の八〇%は成功する(テール・カーネギー) 前回申しましたように、法華三部経の本編たる『妙法蓮華経』の第二章(ご存知方便品第二ですね)から第九章までは、菩薩様方のお休みタイム。

②どんなことだって、すべては未来の糧になる (永田永寿) 『妙法蓮華経』は全八巻からなりますが、この内、第九章までで、なんと四巻の半分が占められてしまっています。

③かつて誰もが成し得なかつた神への道。人類補完計画だ(碓氷ゲンドウ) 第九章まででお釈迦様の時代のご補完されました。そこで次に問題となるのは、当然ポストお釈迦様。

かように多くのスペースを割いてまでして、お釈迦様がお説きになったこと・・・。 それこそは、「声聞の方々成佛する」というお釈迦様よりの予言、つまり印度におけるお釈迦様のお弟子さん

救い、導くことが菩薩の使命。 我が身亡き後に法華経を伝えんがため、お釈迦さまが最初にお言葉かけられた菩薩、榮えあるその一番手こそが、文殊菩薩・弥勒菩薩と並ぶ法華経三部経三大レギュラーの一人、薬王

④俺がやると決めてやる、ただそれだけだ (伊藤開司) お釈迦様は薬王菩薩に直接語りかけることで、ポストお釈迦様の時代、すなわち正法・像法・末法の三時に法華経を流布(世に伝え弘めていくこと)すべきことを説いて行かれます。

そのお釈迦様の強き想いに最初に答えられるのも、やはり薬王菩薩。共に志を同じくする大衆説菩薩と声を揃えて、薬王菩薩は宣言されます。 「唯願わくは世尊、以て慮いたもうべからず。我等佛の滅後に於て当に此の経典を奉持し誦誦し説きたてまつるべし。後の悪世の衆生は善根転た少くして増上慢多く、利供養を貧り、不善根を増し、解脱を遠離せん。教化すべきこと難しと雖も、我等当に大忍力を起して、此の経を誦誦し持説し書写し、種々に供養して身命を惜まざるべし」 この薬王菩薩たちの宣言が刺激となつたのでしよう。他の菩薩様たち、さらには声聞の方々さえも、佛滅後の己が処し方を宣言されるわけですが、実はその過程で、ある重大な課題が浮き彫りとなつてきます。



末法万年...

よろこび法話

信仰と努力により奇跡を呼ぶ



日蓮靈断師会 組織局長
岐阜県美濃市 常鳴寺聖徒団副団長
阪口 映徳

平成十五年の夏、まるで蝉の声をかき消すように突然私の携帯電話が激しく鳴りました。電話の主は師父で、柔道の合宿中の弟・祐徳(当時中学二年)が、高校生との練習試合中に怪我をして救急車で運ばれたという内容でした。

「心配症の師父が、たいしたことのない怪我をまた大袈裟にしているのか?」と軽く受け止めていた私でしたが、弟が全国大会へつながら柔道県予選を明日に控えていることもあり、すぐに搬送先の病院に向かいました。

病院に到着した私は、病室での光景に唾然としました。そこには自分の意思で手足を動かすことのできない弟が、柔道着のままベッドに横たわっていたのです。

「明日の大会は出ます。試合に出してください」と必死に訴える弟の声。それこそは、弟は体も大きくポイントゲッ



警察学校卒業式
(祐徳さんとご両親)

「医師に呼ばれ家族が宣告されたこと。それは「お子さんは頸椎を損傷しており、完全に治るかは保証できません。今は動けないようなベッドに固定しないと、固まった血が脳に及んで障害が残る可能性があります」というものでした。弟にとって、大好きな柔道ができないどころか、もとのように体を動かすことさえ約束されない、とても厳しい現実をつきつけられたのです。

私たちは、すぐにお寺に戻り、靈断を行いました。靈断の結果は、医師の診断どおり後遺症が残る、もとの生活への復帰も困難な様子。何とか弟を助けたい一心で、家族一同が本堂で祈りました。弟は御守を首から下げることできない状態。家族が弟の分の御守を持つことにし、各々が着帯する御守を二体ずつに増やしました。

弟は全身を固定され、天井を見上げたままの状態でもベッドに拘束される毎日です。後日、私が見舞いに行つた際、弟はすでに涙が枯れたかのような、まるで感情のない人形のような様子でした。励ましたくても何も言えず、ただ柔道以外の話題を探していたことを覚えています。

やっとベッドでの拘束の日々から解放された弟は、車椅子に乗せられ少しずつですがリハビリを始めました。その首には、家

族皆が一心に祈願した御守が掛けられています。

皆の祈りと本人の頑張り、の甲斐あつてか、弟は驚異的な回復をみせ、二週間後には自分の足で立てるまでに回復し、自宅療養を許されたのでした。

その後も御守を片時も離さず、一心に唱えるお題目と共に努力を重ねた結果、弟は奇跡の回復を果たし、素晴らしい「未来」をつかむことになったのです。

高校生になった弟は、その後も臆すること無く、明けても暮れても努力しました。そして、二年生にしてインターハイ・国体・世界ジュニア選手権と、岐阜県大会においてオール一本勝ちで優勝するという快挙を成し遂げたのです。



試合での祐徳さん

もちろん、その快挙は三年生になっても変わりません。一度は普通の生活も許されなくなる状態でした。しかし、そのひたむきな姿が目にとまり、大学から入学の誘いを受けました。大学での四年間は、柔道に勉強に明け暮れる日々。試合の際、いつも畳の傍らには、我が子から御守を預かるため、また近くで無事を祈るため、両親がいました。

「行者は不実なりとも、智慧は愚かなりとも、身は不浄なりとも、戒徳を備へずとも、南無妙法蓮華経と申さば、必ず守護し給うべし」(祈禱抄)

昨年、大学を卒業した弟は警察官になりました。今も弟が出場する試合会場には、相変わらず笑顔の両親がいます。「完治の保証はない」と宣告された弟は、その後の信仰と努力により奇跡を呼びました。そして何より、家族の絆をより深めてくれました。

「奇跡」とは、いつも起こることではありません。しかし、何があるうとも祈り信じぬくこと、そして俱生神月守を着帯し邁進することが異体同心となり、奇跡へとつながるのです。御宝前は、仏様に救いを求める場所、そして仏様へ至心に誓う場でもあるのです。

ウサギの数え方

私はウサギ年なんだけど、皆さんはウサギの数え方知ってる?

動物であるにもかかわらず、なぜかウサギは「一羽・二羽・・・」と数えるわね。(一耳・二耳・・・)という数え方もあるよっだけ。実は、この数え方には、仏教が関わっているのよ。

その昔、四つ足の動物を食べるべからぬという「い!」という、仏教者の肉食を禁じる戒律があつたとき、貴重なタンパク源



よろこびちゃんの質問箱



よろこびちゃん

を身体に取り入れる「方便」の一つとして、「ウサギは、二本足で立っているし、しかも【羽(はね)】(耳のこと)まで生えているのだから、きつと【獣(けもの)】ではなくて【鳥】なのだ・・・」そう言つて、食べていたんだって。

そんな説があるのよ。

「ウサギの数え方」と「仏教」との間には不思議な【つながり】があつたのね。その前に、「私たちが生きていくためには食べる!!他のものの命をいただかなければならない!!」という、大切な【つながり】も忘れるわけにはいかないわ!

食事の前には合掌して全ての尊い命に感謝をして「お題目を唱えて、いただきます」をいわなきゃね。

本誌イラスト(三面・四面) 小川けんいち

砥森山 法華寺

生きて救われの道場

住職 阿部 是秀
副住職 阿部 是眞

〒028-0304
岩手県遠野市宮守町下宮守31-69-1
電話 0198-67-3166
FAX 0198-67-2227

正立山 妙法寺番神聖徒団

団長 新聞 信應

毎月1日 10時
盛運祈願祭

お困り事はすぐ相談

神秘秘密の扉が開く時、必ず利益がいただける。

〒690-2404 島根県雲南市
三刀屋町三刀屋1169
TEL 0854-45-3657
FAX 0854-45-3666

安房乃國隨一
三十番神祈願道場

顕本寺聖徒団
団長 小泉 輝泰

「1人で悩まず、まずは相談」
〒295-0002
千葉県南房総市千倉町川合690-1
TEL 0470-44-1062
FAX 0470-44-1524

信用第一の専門店

◇格調高い関東風仏具◇

宗務院指定

仏壇・仏具 仏像彫刻
内陣荘厳具 設計製作

(株)中野三佛屋

東京都台東区寿2丁目7の12
電話 03(3843)6951
FAX 03(3843)6973
定休日 日曜日

北海道運輸局長
認証工場(第4-1095号)です!

お車のことなら
どんなことでも!!

車買取のエース
1.0166 34-3606

(有)キクチ自動車
〒078-8346
北海道旭川市東光6条6丁目190-100
TEL/FAX 0166-34-3606